保育士の呼称による子どもの様子の違いについて

大村 壮

(常葉大学短期大学部)

キーワード：保育士、呼称、役割

The relationship between children's reactions and the designation of nursery teachers

So Omura

(Tckoha University Junior College)

Key Words : nursery teachers, designation, roll

《問題・目的》 幼児が日中を過ごす場として一般的には保育所と幼稚園がある。両者は基本的には異なる施設である。保育所保育指針によると保育所は「生活の場でなければならない」と規定されている。その一方、学校教育法第 22 条や幼稚園教育要領解説によると、幼稚園は教育の場である。そしてそれぞれ保育士と幼稚園教諭がいる。両者の職務は異なるが、一般的には子どもたちから「先生」と呼ばれている。しかしまれに子どもが「先生」とは呼ばず、愛称であったり「○○ちゃん」や「○○さん」などと呼んでいる保育所がある。この「先生」という呼称は特定の職業を指すのではなく、あくまで関係の呼称である (Goffman, 1961; Mead, 1934)。そのためある人が場面ごとに「先生」になったり、「妻」になったり、「母親」になったりする。ある役割関係で結ばれた両者の役割はより固定的なものになっていく。そのため、「先生」と「子ども」の関係もより固定的なものになっていくと考えられる。それでは保育士に対して子どもが保育士に対する呼称や保育士同士が用いている呼称によって子どもの様子にはどんな違いがあるのかについて検討することが本研究の目的である。

《方法》 調査協力者 T 短期大学保育科の 2 年生のうち、保育実習Ⅱを選択した者 148 名。手続き 後期最初の授業のなかでアンケートを実施した。保育実習Ⅱの実習園での子どもがいる前での保育士の呼称、いないところでの保育士の呼称、子どもからの呼称、子どもの様子 (8 項目、5 件法) について回答を求めた。

《結果》 結果① 保育士の呼称の分類

保育士の呼称について、子どもからの呼称、子どもが目前にいるときの保育士同士の呼称、子ども不在時の保育士同士の呼称は以下の通りである (Table1)。いつでも「先生」の呼称を使っているところもほとんど多かった。また「先生」でも「その他」でも、いつでも同

じ呼称を使っているところがほとんどであったのに対し、子どもがいないときのみ「その他」の呼称を使っているところもあった。

Table1. 保育士の呼称の状況

状況	度数
いつでも「先生」	108(75.5%)
いつでも「その他」	22(15.4%)
子ども不在時のみ「その他」	13(9.1%)
合計	143

() 内パーセント

結果② 保育士の呼称ごとの子どもの様子について

以上の呼称の 3 分類を元に、それぞれで子どもの様子がどのようにになっているのかについて調査した。その結果、以下のことが明らかになった。「子どもの笑顔が見られた」($F(2, 140)=9.089, p<.001$) と「降園時、家に帰りがたらない子どもがいた」($F(2, 140)=4.631, p<.05$) に関して有意差が認められた (Table2)。

Table2. 呼称の状況による子どもの様子の違い

	先生	その他	不在時 その他	F 値	多重 比較
笑顔	4.98 (0.14)	5.00 (0.00)	4.77 (0.44)	9.09***	他 > 先 > 不在
降園	2.17 (1.18)	2.95 (1.36)	1.92 (0.86)	4.63*	他 > 先 > 不在

* $p<.05$, *** $p<.001$, () 内 SD

《考察》 子どもの様子の「子どもの笑顔」、「降園時、帰りがたらない」に関して、子どもがいるところといないところで呼称を使い分けている園がもっとも低かった。これは子どもがいるのかいないのかを強く意識しており、それだけ子どもの前で「先生」役割を全うしようとしているからだと考えられる。子ども不在時には「先生」の役割をおりている代わり、子どもを目の前にした際、「先生」の役割にはまった関わりをしている可能性がある。(OMURA, So)